



日程	学校名	プログラム	参加イベント名
12/12 (金)	名古屋国際中学校・高等学校	MYP / DP	授業参観・スクールツアー

## 名古屋国際中学校・高等学校でのIB授業観察



都留文科大学 国際教育学科でIBEC取得を目指す大学生5名が名古屋国際中学校・高等学校さんに訪問させていただきました。MYP・DPの授業を見学しました。国語、理科、数学、英語など複数教科において、教師が一方的に教えるのではなく、生徒同士がグループで対話しながら学びを深める授業が行われていました。先生方の、答えを示すのではなく、生徒の思考を引き出す問いかけのスタイルに大変刺激を受けました。教室全体が活発な対話と協働に満ちていました。

## 問いを核にした授業づくりへの決意

今回のスクールツアーを通して、IB校の授業が「教える」よりも「考えさせる」ことを重視している点に強い印象を受けました。先生から問いを投げかけられ、すぐにグループで話し合いを始め、自分の考えを積極的に発言しているIB生たちは元気いっぱいでした。

特に印象的だったのは、数学のテスト返却時に、生徒が自分の解答過程に納得がいかない点について先生と議論する姿でした。単なる点数の受け取りではなく、「どこで、なぜ間違えたのか」を対話を通して深めていました。

また、理科や数学の授業では、身近な生活場面と結びつけて概念を理解させる工夫が多く見られ、知識が実生活とつながることで、学びが「使える力」へと転換されていることに気づきました。IBの学習環境は、生徒の思考力と対話力を同時に育てる教育であると実感しました。

## 対話から生まれる学びの力

将来教育者となった際には、名古屋国際さんで観察させていただいたように「問いを中心にした授業」を実践したいです。答えをすぐに与えるのではなく、生徒が対話を通して考えを深める環境を整えたい。また、言語的背景の異なる学習者が共に学べるよう、協働学習を取り入れ、多様性を前提とした授業設計を行うことで、誰もが主体的に参加できる教室づくりを目指したいと強く思いました。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



伊藤健隼、園原巧海、北島悠理  
(都留文科大学 国際教育学科 1-3年)